

Mukogawa Women's University

Online

卒業生座談会

世界で活躍する武庫女卒業生

— 新たな挑戦 —

vol.
04



武庫川女子大学 女性活躍総合研究所



2019年度文部科学省
科学技術人材育成費補助事業(2019~2024)
ダイバーシティ研究環境実現
イニシアティブ(牽引型)

世界で活躍する武庫女卒業生

— 新たな挑戦 —

2020年はコロナ禍により、全世界の活動が停滞に追い込まれ、まさに全人類の叡智が試されています。そのような状況下でしたが、「世界で活躍する武庫女卒業生—新たな挑戦—」と題してオンライン・シンポジウムを開催しました。本シンポジウムは、4回目となりますが昨年度に引き続き、文科省科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティー研究環境実現イニシアティブ（牽引型）の事業の一環として開催しました。

登壇頂きました卒業生は、絹田皆子 氏（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科公衆衛生学分野 助教）、多田美晴 氏（ドイツ国立ミュンスター音楽大学修士課程在学中）、横井利佳子 氏（楽天株式会社勤務）、吉本瑠巳 氏（富士ゼロックス兵庫株式会社勤務）の4名です。ドイツ在住の多田さんは、日本時間に合わせていただき早朝5時に参加いただきました（感謝）。また、横井さんは東京から、絹田さん、吉本さんは神戸のご自宅からZoom参加となり、オンラインを身近に感じた座談会でした。

座談会は、それぞれの卒業後の歩みを中心にご紹介いただいたあと、「ターニングポイントはいつだったか」、「国内外で活躍していくには何が必要か」、「女子大学で学んだことはプラスだったかマイナスだったか」「今後の新たな挑戦とは」といったテーマについて意見交流をしました。また在学生に向けてのアドバイスでは、「他人と比べることな

く自分の道を進むこと」、「多くの人の意見を聞き、知ることを楽しむこと」、「小さな達成感を積み重ねていくこと」など、それぞれの経験にもとづいた力強いメッセージをいただきました。

参加者からは、「無理せず自然体でやりたいことをやり、出会いなどのチャンスを活かし、臆せず海外にも出られている卒業生の武庫女魂に感動しました。」「世界で活躍される先輩方の話を聞いて、目標にしたい女性像を自分の中でつくることができました。」「卒業してから10年程経った者としても同じ同窓生の話は大変興味深く、刺激をいただきました。」といった感想が寄せられました。

武庫女から社会へ、世界へと羽ばたいて行った卒業生が、自立した女性として本学で学んだ教育を芯にしっかりと活躍されていることを自覚させて頂いたシンポジウムでした。参加されました皆様も同様に心を熱くされたことと思います。

在学生、卒業生の皆様にも夢への挑戦と実現の可能性は大いにあります。どうか、自然体で夢に向かって挑戦してください。いつも応援しています。

女性活躍総合研究所は、一生涯を描ききる女性のキャリアデザインの探索と開発の研究を行っていきます。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

女性活躍総合研究所

所長 高橋享子



vol.4

世界で活躍する武庫女卒業生

— 新たな挑戦 —

{ 日 時 } 2020年10月31日(土) 13:00~15:00

{ 場 所 } 武庫川女子大学 Zoom online

{ 主 催 } 武庫川女子大学 女性活躍総合研究所

.....

PROGRAM

13:00 開会挨拶

登壇者ご紹介

司会： 福尾 恵介

(食物栄養科学部教授)

13:10 座談会

ファシリテーター： 高橋 享子

(女性活躍総合研究所所長)

登壇者(卒業生)の方々より、

◆プロフィール、現在の状況についての紹介

◆質問項目への回答

卒業生： 絹田 皆子 氏

(食物栄養学専攻博士前期課程修了)

多田 美晴 氏

(音楽学部専攻科修了)

横井 利佳子 氏

(文学部教育学科卒)

吉本 瑠巳 氏

(文学部日本語日本文学科卒)

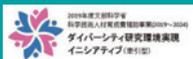
※学部・学科名は卒業時の名称です。

◆参加者からの質疑応答

14:55 閉会挨拶

15:00 閉会

文部科学省科学技術人材育成費補助事業
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)



国内外で活躍する卒業生との座談会が、今年で4回目を迎えることになりました。本学から、これまでに約19万人の卒業生が巣立っています。様々な分野で活躍し、社会から高い評価を得ている武庫女卒業生が、どのようにして困難を乗り越え、夢の実現に挑戦されてきたか、その具体的な経験は、在学生にとって素晴らしいロールモデルとなっています。コロナ禍がもたらす「ニューノーマル」な社会の中で、女性活躍への期待は大変大きくなっています。On Lineで、先輩女性たちの新たな挑戦や思いを共有しませんか？ 皆さまご参加をお待ちしています。

卒業生紹介

絹田 皆子

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科
公衆衛生学分野 助教
2008年 食物栄養学専攻博士前期課程 修了



多田 美晴

ドイツ国立ミュンスター音楽大学修士課程在学中
2016年 音楽学部専攻科修了

横井 利佳子

楽天株式会社勤務
2011年 文学部教育学科卒業



吉本 瑠巳

富士ゼロックス兵庫株式会社勤務
2010年 文学部日本語日本文学科卒業

世界で活躍する
武庫女卒業生

新たな挑戦

2020年10月31日(土) 13:00~15:00

会場 武庫川女子大学 Zoom on line

【司会】 福尾 恵介 (食物栄養科学部教授)
【ファシリテーター】 高橋 享子 (女性活躍総合研究所所長)

参加費 無料 (要申込)
先着 100名

対象 教職員・学生・一般 申込締切 10月25日(日)

〈事前申し込み方法〉



メール

件名に「卒業生座談会 参加申し込み」、本文に所属、氏名、をご記入の上、女性活躍総合研究所 (iwcareer@mukogawa-u.ac.jp) 宛てにメールをお送りください。

主催 武庫川女子大学 女性活躍総合研究所

TEL : 0798-45-3737 (内線 : 5081) E-mail : iwcareer@mukogawa-u.ac.jp



卒業生プロフィール (五十音順、敬称略)

絹田 皆子 *Minako Kinuta* (2008年 食物栄養学専攻博士前期課程修了)

所属(職位) 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 公衆衛生学分野 助教

学 歴

- 2006年 武庫川女子大学 生活環境学部 食物栄養学科卒業
- 2008年 武庫川女子大学 大学院生活環境学研究科
食物栄養学専攻博士前期課程修了
- 2012年 大阪大学大学院医学系研究科
予防環境医学専攻博士後期課程修了
- ～2020年9月 大阪大学大学院医学系研究科 公衆衛生学 特任助教

現在の仕事について

私は、食事に興味があり、体に良い食生活を身に付けたく、管理栄養士養成校へ進学しました。様々な講義を通して、「人が生きるには食べることがとても大事であり、体は食べ物によって作られている」ことを再認識することとなり、特に食生活などの生活習慣が病気を引き起こすことを予防する学問である公衆衛生学に深く興味を持ちました。そのため、博士後期課程は、生活習慣病予防に関する研究を行っている大阪大学の公衆衛生学教室に入門し、博士号取得後、約8年にわたって、同

教室にて生活習慣病予防に関する研究に携わってきました。2017年度からは、武庫川女子大学短期大学部食生活学科にて、自身が専門とする公衆衛生学の非常勤講師をしています。私にとって、大学での講義は楽しく充実した時間であったため、担当する公衆衛生学が楽しく興味深い講義時間であり、一人でも多くの学生が自身または家族の生活習慣を見直すきっかけになることを願い、授業に取り組んでいます。

多田 美晴 *Miharu Tada* (2016年 音楽学部専攻科修了)

所属(職位) ドイツ国立ミュンスター音楽大学修士課程在学中

学 歴

- 2015年 音楽学部 演奏学科卒業
- 2016年 音楽学部 専攻科修了
- 2017年 ドイツ国立ミュンスター音楽大学 Zertifikatsstudienjahr 課程修了

現在の仕事について

大学在学中から海外研修や、マスタークラスに積極的に参加し、クラシック音楽の本場であるヨーロッパで勉強する事に興味を持ち、専攻科修了後2016年秋にドイツへ渡りました。現在は修士課程に在学しており、ピアノソロだけでなく室内楽やフォルテピアノの演奏法も学んでいます。2019年イタリ

アのローヴェレで開催されたタディー二国際音楽コンクールにて1位を受賞致しました。2019年ピアノ、ヴァイオリン、チェロによる“Trio Resonanz”を結成し演奏活動を行なっています。聴いてくださる方々に感動を届けられるような演奏家を目指して、これからも演奏活動が続けていきたいと思いを。

卒業生プロフィール (五十音順、敬称略)

横井 利佳子 *Rikako Yokoi* (2011年 文学部教育学科卒業)

所属(職位) 楽天株式会社勤務

学 歴

- 2010年 セントラル・ランカシャー大学
インターナショナル・ビジネス・コミュニケーション学科卒業
- 2011年 武庫川女子大学 文学部教育学科卒業
- 2012年 ロンドン大学 応用言語教育学科修士課程修了

現在の仕事について

2013年に新卒で楽天に入社し、楽天市場のECコンサルタント、無料通話&メッセージアプリ「Viber」のマーケティング、フリマアプリ「ラクマ」の台湾でのサービス立ち上げの業務を経て、現在は日本のラクマでブランディングとウェブディレクションの仕事をしています。私のチームのミッションは、お客様がラクマのブランドファンになった理由や経過を明らかにし、ラクマファン獲得のための戦略

を策定し実行することです。一貫したイメージを訴求するためのコミュニケーション設計やクリエイティブ制作も実施し、お客様がラクマブランドを認知し信頼関係の構築に繋げるための取り組みをしています。また、マネージャーとしてメンバーの育成、チームとして成果を出すための方法を日々試行錯誤しながら業務を遂行しています。

吉本 瑠巳 *Rumi Yoshimoto* (2010年 文学部日本語日本文学科卒業)

所属(職位) 富士ゼロックス兵庫株式会社勤務

学 歴

- 2006年4月 - 2010年3月 卒業
- 2010年4月 富士ゼロックス兵庫株式会社 就職
- 2016年5月 - 2019年9月 海外業務研修生(富士ゼロックス株式会社出向)
約2年間 ベトナム ホーチミン にて勤務
約1年間 東京にて勤務
- 2019年10月 富士ゼロックス兵庫株式会社に戻り、現在に至る

現在の仕事について

富士ゼロックス兵庫(株)では、兵庫県内のお客様に、複合機など各種情報機器の販売・保守サービスおよびシステム・サービスの提供をしています。現在の所属部門では、富士ゼロックス製の機械を販売している特約店の販売促進、協業による拡販に努めています。いわゆる「営業」の仕事をしています。就活中に、「営業はしんどい、事務でいい」というような会話がありました。10年前と今も就活生が想像していることは一緒ですか?私自身は就職や仕事に対して経験したことのないことだった

ので、固定概念やこだわりはそこまで強くなかったと思います。ただ、それとは別に、20代では〇〇をしたい、XXを達成していきたい、40代には□□な自分でいたい等というだいたいの自分像を置いて、かっこよく言うマイルストーンのようなものは強く持っていました。30代の今、一般企業での働き方と同時に自分の好きな、やりたいことをさせてもらった私の経験とこれからを共有できたらと思います。



● **司会者（福尾）** 皆さん、こんにちは。それでは、ただいまから会を始めさせていただきます。

今日はたくさんの方にご参加いただきましてありがとうございます。本日は、「世界で活躍する武庫女卒業生－新たな挑戦－」ということで、座談会形式で開催させていただきますが、まず今回の趣旨について簡単に私のほうから説明させていただきます。

この会は昨年度、奈良女子大学が代表校となって採択された「文部科学省の科学技術人材育成費補助事業のダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」の事業の一環で実施しています。本事業は、奈良女子大学と奈良工業高等専門学校、それから本学の3機関に加えまして、株式会社プロアシスト、帝人フロンティア株式会社、佐藤薬品工業株式会社の3つの企業が参加しています。2024年度までの6年間として取り組んでいます。

具体的には、女性研究者の支援を中心に大学教員の研究環境を整備するということで、訪問型の病児、病後児保育システムの新規構築や、女性管理職の採用率向上な

ど、さまざまな取組を現在やっております。

本日は、社会で活躍する卒業生の方々からいろんなロールモデルを提示いただき、女性が社会で活躍する上での課題について、皆さんと一緒に考えていくと共に、若い方、あるいは学生さんが自分の目標を見つけられ、様々な気づきを感じていただけるような機会になればと思っています。

それでは本日の簡単なスケジュールを説明します。

この後、4人の卒業生の皆さんそれぞれの発表があり、質疑応答があります。その後2時半頃から参加者の皆さんからご質問を受け付けたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。

それでは、私のほうから本日発表いただく4人の方をごく簡単に、皆さん方のお手元にもありますプロフィールにそって、紹介させていただきます。

まず最初に、絹田皆子さんです。2008年食物栄養学専攻の博士前期課程を修了されて、現在は岡山大学の大学院、医歯薬学総合研究科の公衆衛生学分野の助教をされております。本学卒業後、公衆衛生を勉強したいということで大阪大学の公衆衛生学教室で博士課程を修了された後、8年間そこで生活習慣病に関する研究に携わってこられました。現在は、本学での非常勤講師も勤めておられます。

2人目は、多田美晴さんです。2016年音楽学部専攻科を修了されて、現在ドイツ国立ミュンスター音楽大学の修士課程在学中で、本日はドイツから参加いただいています。在学中から海外の研修に積極的に参

加されており、ドイツに渡られてからはピアノソロだけでなく様々な演奏活動をされており、ヨーロッパのコンクールで1位を受賞されたという経歴を持っておられます。

3人目は横井利佳子さんです。2011年文学部教育学科を卒業されて、現在は楽天株式会社に勤務されております。ロンドン大学応用言語教育学科修士課程を修了され、楽天に入られてからは、楽天市場でのECコンサルタント、台湾でのサービス立ち上げ等の業務を経て、現在はマネージャーとしてメンバーを仕切っておられます。

4人目は、吉本瑠巳さんで、2010年文学部日本語日文学科を卒業され、現在、富士ゼロックスの兵庫株式会社に勤務しておられます。海外業務研修生としてベトナムのホーチミンに2年間行かれたことがあるということです。吉本さんは、様々な目標を20代、30代といったように立てておられ、その間様々なことを実現されていると聞いています。

今日は、分野の異なる方々のお話を学生の方々にも聞いていただき、ぜひ自分の将来設計や色々な目標を探しながら考える機会を持っていただきたいと思います。

それでは、ファシリテーターの女性活躍総合研究所の研究所長、高橋先生に代わりしたいと思います。高橋先生、よろしく申し上げます。

●高橋所長 皆さん、こんにちは。本日、ファシリテーターを務めさせていただきます、女性活躍総合研究所の高橋です。どうぞよろしく申し上げます。

それでは早速ですが、4人の皆様から現

在の状況と、プロフィールを織り交ぜながら、時間にして5分程度でご説明をお願いしたいと思っております。

それでは、絹田さんから順番にお願いできますでしょうか。



●講師（絹田） ご紹介ありがとうございます。岡山大学の絹田と申します。今日はこのような貴重な場にお招きいただきましてありがとうございます。この場をお借りしまして、これまでもお世話になりました諸先生方へ感謝の意を伝えるとともに、これから社会へ羽ばたく皆様のお力になればと願いながら自己紹介を始めさせていただきます。

私の名前は絹田皆子と申します。私は、尼崎市で生まれ育ちました。学生時代も尼崎市から通っていましたので、大学4年生の国家試験前は電車を待つ時間ですら惜しくなり、自転車ですらドア・トゥー・ドアの学生生活を送った時期もありました。

今は神戸市内で夫と3歳の長女と、あと7か月の長男の4人で住んでいます。夫を始め、3人の協力のおかげで、この10月から育休復帰と同時に前所属先である大隈



大学公衆衛生学から岡山大学公衆衛生学分野に異動しまして、毎日新幹線で通勤しています。武庫川女子大学を卒業してから今の岡山大学に勤めるまでの経歴については、最後に触れさせていただきます。

それでは、早速ですが、私が行っている大学での仕事についてお話しします。

大学教員の仕事は学生への指導をはじめ様々ありますが、その中でも2つの仕事について私が今行っている内容をお話しします。

まず学生への指導です。2017年9月から本学短期大学の公衆衛生学の講義において非常勤講師をさせていただいています。本学での講義が私の初めての学生への講義でしたので、とても緊張したことを昨日のことのように覚えています。

実は私は学生時代、公衆衛生学がとても苦手な講義だったのですが、それを担当することになるということは何らかの意味や理由があると感じまして、1人でも多くの学生に公衆衛生学って楽しいと思っていただけのような授業にしようという思いで今年も授業をさせていただいております。

そして、この10月からは岡山大学医学部の3年生の実習において公衆衛生学分野配属となった3名の学生の指導を担当しています。

次に専門分野の研究についてです。私の専門分野は公衆衛生・予防医学です。公衆衛生という言葉は聞き慣れないかと思いますが、公衆衛生とは英語で訳すとパブリックヘルスといいまして、パブリックは人々や集団、そしてヘルスは保健や健康と訳

します。漢字から意味を考えると公衆は人々、衛生は生命の生を守る、人の命を守ると読める字で成り立っています。つまり、疾病を予防し、人々の健康を維持増進させる学問が公衆衛生です。

そして医学的に健康の維持増進のための予防、探求する予防医学も専門としてしています。

私の現在の研究テーマは、生活習慣からなる予防可能な高血圧や糖尿病などの循環器病にならないために、研究者として貢献したいという思いから循環器病と生活習慣についての研究をしています。

主に、学童期を対象として将来、その子供たちが早い段階から高血圧、糖尿病などの循環器病にならないように、どのような生活習慣が良くて悪いのかについて研究をしています。

それでは自己紹介最後となりますが、武庫川女子大学卒業後から現在に至るまでの経歴についてお話しします。本学学部卒業後、修士課程は武庫川女子大学大学院を修了し、博士課程は前職の所属先である大阪大学公衆衛生学を修了しまして医学博士を取得しました。その後、同教室において特任研究員、そして特任助教として循環器予防に関する研究に従事し、研究のノウハウをたくさん学ばせていただきました。

現在は、岡山大学公衆衛生学分野の助教として、これまでの経験を活かしながら研究と教育に励んでおります。

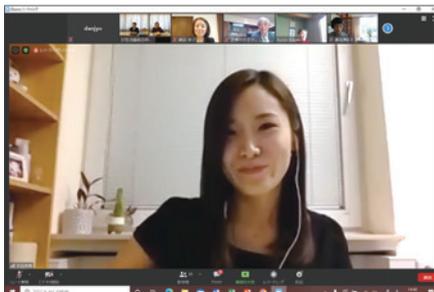
以上で私の自己紹介を終わります。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

●高橋所長 絹田さん、どうもありがとう

ございます。

私は同じ学科でしたので、学生時代からよく覚えている卒業生で、今、公私共に充実した日々を送っていらっしゃると思います。後でもお聞きしたいと思いますが、幾度かターニングポイントがあったように伺っております。

それでは現在ドイツの大学院に在学中で、大活躍しておられる多田さんにお話をお伺いしたいと思います。多田さん、朝早くからありがとうございます。どうぞよろしく願いいたします。



● **講師（多田）** はじめまして、多田美晴と申します。本日はこのような機会を与えていただきましてありがとうございます。

現在朝の5時でして、まだ頭も声も正直起きていませんので、お聞き苦しい点もあるかと思いますが、頑張ってお話いたしますのでよろしくお願いいたします。

私は2015年に音楽学部演奏学科を卒業いたしましたして、2016年に音楽学科専攻科を修了いたしました。その後ドイツに渡りまして現在はドイツの音楽大学で学んでおります。

大学在学中の取組につきましては、個人レッスンやコンサート、コンクールへの参加、また海外研修への参加という3つを私はとても大切にしていました。

個人レッスンでは先生との1対1のレッスンで演奏技法を高め、音楽表現を深めました。学内ではオーディションや試験の成績によって学内演奏やコンサート、オーケストラとの共演ができる機会を与えていただきました。また、卒業時には井上直幸記念音楽賞を受賞いたしまして、各新人演奏会に推薦していただきました。学外でも、積極的にコンクールやコンサートに出演いたしまして第8回神戸新人音楽賞コンクール優秀賞受賞、第2回東京国際ピアノコンクールにて第4位を受賞いたしました。

音楽学部では、長期休暇中にイタリアやドイツでの海外研修がありまして、私も参加させていただきました。またオーディションを経てアメリカのボールステイト大学との短期交換入学プログラムにも参加いたしました。海外の経験はとても私にとって刺激となりまして、音楽表現の幅を広げるきっかけともなりました。

海外での経験により、留学への憧れも強くなりました。そして、専攻科修了と同時に2016年、ドイツへ渡りましてドイツ国立ミュンスター音楽大学に入学いたしました。

2017年にミュンスター音楽大学のZertifikatsstudienjahr課程を修了いたしまして、2018年からはミュンスター音楽大学の修士課程で学んでおります。

ミュンスターはドイツの北西部に位置し



ておりまして、オランダの国境近くにある町です。そして中世の面影を残す素敵な街並みとなっております。

ドイツでも日本と同様、ピアノの個人レッスンや室内楽のレッスン、またフォルテピアノのレッスンというものがあります。フォルテピアノとは現在のピアノができる前のピアノで、ミュンスター音楽大学には20台ほどフォルテピアノがあります。ベートーベンやショパンやブラームスなどの大作曲家たちが使用していたものと同じモデルのフォルテピアノを使い、演奏技法を学んだり作曲家の意図していたものを探求したりしております。

試演会では、月に2、3回門下生が集まりお互いの演奏を聞き合い、意見交換したりして、互いに高め合っております。

また、コンサートやコンクールにも積極的に参加しまして、昨年はタディー二国際音楽コンクールで1位を受賞いたしました。

2019年には、バイオリンとチェロのピアノによる Resonanz Trio を結成いたしました。そして、同じく2019年に Erpenbach Classic という音楽事務所と契約をいたしまして、現在演奏活動をしております。

以上です。ありがとうございました。

●高橋所長 ありがとうございました。

多田さん、もう本当に充実したお話ですね。ドイツの良い街並みでお過ごしで、大学院でレッスンをしながら演奏活動や今の事務所との契約など、本当にヨーロッパでのご活躍が伝わってきました。ありがとうございます。

後ほどまたお話をお伺いしたいと思います。よろしく申し上げます。

それでは続きまして、横井さん、お願いいたします。



●講師(横井) では早速自己紹介させていただきます。2011年に教育学科を卒業した横井利佳子と申します。出身地は大阪です。今は仕事で東京に住んでいます。

附属中学校から武庫川に通っていて、大学は武庫川以外にも交換留学プログラムで大学から行かせていただいたセントラルランカシャー大学も卒業しています。その後、ロンドンにあるロンドン大学の修士課程も修了しました。

現在は、楽天株式会社勤めていますが、主な仕事としてはフリマアプリラクマでブランディングとウェブディレクションのマネージャーをしています。

ここから詳しく紹介させていただきます。写真も幾つか用意してきましたのでご覧いただければと思います。

まず2007年から11年まで武庫川女子大学とセントラルランカシャー大学で過ごしましたが、武庫川女子大学では教育学科で

小学校教育や英語教育について勉強しました。小学校と中学校の英語教員免許を取得しています。

在学中に交換留学生としてセントラルランカシャー大学というイギリスの北部にある大学に留学していたのですが、そこではビジネスについて学び、学位も取得しています。

これが小学校の教育実習に行ったときの写真です。こちらが附属高校で英語の実習をしたときの様子になります。これがイギリスの大学での卒業式の写真ですが、こういった形で世界中から学生が勉強しに来ていたので、いろんな言語や文化のバックグラウンドの学生と一緒に1年間過ごすことができました。

その後、ロンドン大学に2011年から行きました。ロンドン大学では応用言語教育学科で言語学や、言語習得法について勉強しました。それに加え、実践的に現地の小学生や大学生に日本語や日本文化を教えるということを実践しました。

イギリスにジャパンソサエティという附属高校の上田元校長に紹介していただいたNPO法人があるのですが、ロンドン大学在学中にそちらでインターン生として日英交流イベントの開催や、あとは大使館や宮殿のパーティに出席させていただくという経験もしました。

これが現地の小学生に日本文化を教えたときの様子です。新聞紙を使って兜を作るという、楽しみながら日本文化に触れあうことを意識した授業を実施しました。

これが大学院を修了した卒業式の写真で

す。イギリスの大学院は1年間で修士号を取得できるので、かなり大変な1年ではありませんでしたが、無事に修了することができました。

その後、アメリカのボストンで開催されているボストンキャリアフォーラムというバイリンガル向けのキャリアフォーラムがありまして、そこで楽天に内定をいただき、2013年に楽天に入社しました。楽天に入社してからは、1年目は楽天市場に出店されている店舗様のコンサルティング業務を国内でやりまして、その後、Viber（バイバー）やラクマというサービスを担当し、イスラエルやロンドン、また台湾と色々な国に海外出張で行き、海外のチームと一緒に働く経験をさせていただきました。

これが台湾でのPRイベントの様子ですが、このときは毎月半分以上を台湾で過ごすといったような形で仕事をしている時期でした。

こちらは、部署のみんなで二子玉川の川沿いでバーベキューをしたときの写真です。右奥に映っているのが楽天の本社になります。仕事仲間とプライベートもこういった形で、みんなで楽しい生活を送っています。

私の自己紹介は以上になります。皆さん、本日はどうぞよろしくお願ひします。

●高橋所長 ありがとうございます。横井さん、ダブルディグリーを取られたということですよ。

●講師（横井） はい、そうです。

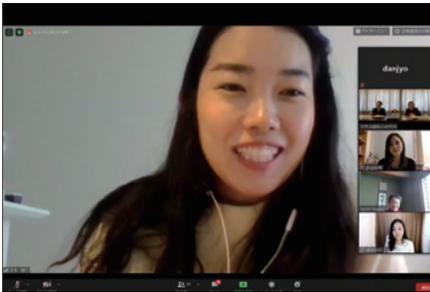
●高橋所長 ロンドンに行かれて、そして修士をご卒業されて楽天に就職ということ



で、本当に充実した日々をお過ごしということが伺えました。また、世界で活躍する卒業生の代表という感じもいたしますので、いろいろとお話を聞かせていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

● **講師（横井）** よろしく願いいたします。

● **高橋所長** それではお待ちせしました。吉本さん、早速ですがお話聞かせていただけますでしょうか。



● **講師（吉本）** こんにちは。富士ゼロックス兵庫の吉本と申します。よろしく願いいたします。

私、自分のことを消極的に言うことはあまりないのですが、先の3名の方がすご過ぎて、私の自己紹介やこれからの経歴がものすごく普通なので、びっくりされるかなとちょっと思っています。でも、自己紹介します。よろしく願いいたします。

吉本瑠巴と申します。2006年4月から2010年3月まで在学しておりました。そこから富士ゼロックス兵庫という、富士ゼロックスのメーカーの販売会社が各都道府県にありまして、その兵庫の会社に現在も勤めております。

2016年の5月から2019年の9月まで会社の海外業務研修生として私は2年間ベトナムにおりました。その後、1年間東京と千葉で勤務しておりました。2019年10月から兵庫県に戻ってきまして、今に至ります。

入社したときからずっと営業職をしておりまして、ベトナムや東京でも少し役職に就いたりなど業務内容は変わりましたが、コピー機やパソコンのシステム関係のものを販売する営業職というのは変わらず続けています。

プチ情報、自己紹介のレベルが低過ぎて申し訳ないのですが、4月24日生まれのおうし座、B型。正確は明るくて活発、これは皆さん共通されるんじゃないかなと思います。神戸生まれの神戸育ちで、相手と書いていますが、結婚するのですが、その人が外国人です。旅行好きで、写真に載せていますが、これはベトナムの田舎の景色で、トレッキングとかハイキングとか山登りみたいな形で2、3日かけてテントに泊まったときにすごい景色があったので写真に残しています。

自己紹介に旅行好きと書いていますが、大学生の頃は旅行だけではなく、何か違う海外との関わり方をしたいと思い、大学で日本語を教えたり、日本で働いている外国人の方にボランティアで教えたり、カンボジアでスタディツアーというものに参加したり、短期留学だったり、大学のときにはいろんな海外との関わり方、ポイントではなくてもう少し深く関わられるような機会を作るように心掛けました。

そのときの写真を見ながら振り返り、何

が今に生きているか、自分を形成しているかと考えると、海外に行き、いろんな人やいろんな文化を持った人と話をすると、アドリブが強くなると思いました。

例えば海外に行ったり、韓国の大学に行って日本語を教えたりするときに、日本人代表で何か一言言ってくださいとか、一発芸をしてくださいと言われる事があったので、度胸というちょっと根性みたいな感じに聞こえるかもしれませんが、アドリブや、人前で発表するときに、そこまで緊張を見せずに発表できるようになったことが大学時代に学んだことだと思いました。簡単ですが、私の自己紹介は以上です。

●高橋所長 ありがとうございます。すばらしい経験をたくさんされていて、日本語というものを介して海外の方と接点を持たれているというところが、やはり日文学科を出られたという特徴が出ていて、また後でお話をお聞かせいただきたいと思います。よろしく願いいたします。

それでは、皆さんのプロフィールをお聞かせいただきましたので、少し視点を変えて質問させていただいて、皆さんからのいろんな体験、あるいは思っておられることを引き出していきたいと思っております。

それでは、まず皆さんにとってターニングポイントはどこになるかというのを簡単でいいですので、教えていただけますでしょうか。今日は学生の方もたくさん参加しております。ポイントに気が付かれてない学生もいると思いますので、今後のためにも教えていただきたいと思います。

多田さん、お願いします。

●講師(多田) 私の個人レッスンの担当をしてくださっていた中村伸吾先生との出会いが私のターニングポイントとなりました。大学1回生の頃、私の指の力がまだ少し弱くて、それを改善するために打鍵方法など1から教えていただきました。

もともと先生も学生時代にドイツで学ばれていて、そんな先生の細かい指導のもと勉強しているうちに私もドイツ音楽にだんだん興味を持ち始めました。

私が在学中、音楽学部では毎年夏休みにイタリアでの講習会に参加するための海外研修があり、私も大学2回生の頃、先生に勧められまして参加することに決めました。それが私の初めてのヨーロッパ滞在で、海外でのレッスンやコンサート、日本では耳にすることのない教会の鐘の音色や、本場ヨーロッパの景色に触れることで作曲家がより身近に感じることができまして、そういう環境で私も学びたいという気持ちが強くなりました。

●高橋所長 そうすると、そのときからやはりドイツとは縁があったということでしょうね。やっぱり中村先生との出会いでドイツ音楽に魅力を感じられて、そしてヨーロッパに行かれて、ヨーロッパの街並みに魅了されたといういきさつですよね。出会いということですよ。ありがとうございます。

それでは横井さん、いかがでしょうか。

横井さんのターニングポイントは。

●講師(横井) そうですね。ターニングポイントはロンドン大学で大学院生活を過ごしたことかなと思っています。

ロンドン大学が世界中の100か国以上か



ら学生が来ているような大学で、その中で様々な言語や文化の学生と一緒に過ごせたことが私自身の視野を広げることにつながったのではないかなと思っています。

そのきっかけになったのが、大学の交換留学制度なのですが、先ほど自己紹介でも紹介させていただいたのですが、セントラルランカシャー大学留学中に山崎洋子先生からご紹介していただいたロイ・ロウ先生が、ロンドン大学の大学院に進学を勧めてくださいました。そのときは、本当は自分が大学院に行くということは考えてもなかったのですが、元学長の糸魚川先生や、西尾先生にも後押しいただいて、海外でもっと新しいことにチャレンジしたいという気持ちから大学院に進学することを決断しました。

ロンドン大学の大学院が始まるまでは、武庫川の大学院に入学させていただいて、山崎先生の研究室にお世話になったのですが、先生の厳しいご指導のおかげでロンドン大学では毎日レポート課題やリーディングに追われる日々だったのですが、無事に1年をやり過ごすことができて修了することができたと思います。

大学院を修了したことで、すごく自分の自信にもなりましたし、先生方がいいご縁をつなげてくださったことや日本にいたら出会えなかった人たちとロンドンで出会えたことが私の人生が変わったターニングポイントかなと思っています。

●高橋所長 ありがとうございます。

やはり最初のダブルディグリーを取られたセントラルランカシャー大学がスタート

で、そして山崎先生、糸魚川先生、西尾先生のアドバイスや後押しがあってロンドン大学に進学され、それがターニングポイントになったという今のお話でしたが、やはりロンドン大学に入学されて、そしてそこを卒業されたという大きな山を乗り越えられたということが横井さんの大きなポイントというふうに理解させていただきました。ありがとうございます。

●講師（横井） ありがとうございます。

●高橋所長 それでは吉本さん、いかがでしょうか。ターニングポイントをお話していただけますか。

●講師（吉本） ターニングポイントが3つあります。1つ目が海外業務制度に会社の同期が受かったときです。こういう研修制度があるというのをそもそも私は知らなくて、海外で働きたい、海外に住みたいと思いつつ見ているのは、例えば青年〇〇や、ボランティア〇〇、海外留学しか見ていなくて、会社にあるということを知らなかったときに、はっと気づかされました。

その気づきですが、ずっと会社にいるのもそのときは正直なくて、30代になったときには違うことをしたいなと思っていたので、どうしようかな、会社に乗っかるか、乗っからないかという選択を、日文の上田先生に相談したことが、2つ目のターニングポイントです。「誰も受かったなんて言ってないし、家賃や保険について分かっているのか」、「分からないのではないか」と言われました。

どういう事かという、ずっと実家に住んでいまして家賃のことも分からないし、

保険のことも分からないし、箱入り娘といったらちょっと大げさですが、そういう社会人が知っているようなことを何も分かっていなくて、どこかに乗っかっていつも過ごしてきたので、「そんなことも会社ならやってくれるし、あなたが海外でやりたいと思っていることをやらせてくれるんじゃないの。」「ほかの考えがないならそれに乗っかったらいいんじゃないですか。」と言われたときに、なるほどなと思いました。

最後にもう1つは、親が病氣したときにやっぱり近くにいてあげたいな、これから一緒に過ごす時間も限られているし、寂しいと思ったので、それも1つのターニングポイントかなと思いました。以上です。

●高橋所長 ありがとうございます。

後押しをされた恩師の上田先生と、そしてそのときに判断された吉本さん、すばらしいターニングポイントだと思います。また後で聞かせてください。

それでは絹田さん、ターニングポイント教えてください。

●講師(絹田) 私のターニングポイントは幾つかあると、高橋先生がおっしゃってくださったように思います。一番大きなターニングポイントは、今机に向かい、教科書を開いて勉学に一直線の道を歩んでいますが、私はもともと3歳の頃からクラシックバレエをずっとしておりまして、クラシックバレエだけをしている中学、高校時代でした。

将来はバレリーナになろうという思いで、中学3年生のときに宝塚音楽学校を受験しようと決意しました。丸1年間かけて必死

で宝塚受験に専念し、頑張っていたのですが、皆さんご承知のとおり今ここにいますという時点でもう違うのですが、1年間本当に必死に頑張り、やり終えたということで、いざこれから大学に進むのか、バレリーナになるのかと選択したときに、あ、私勉強しようというふうに切り替えることができました。

もうこれからは勉強しようという切り替えてから実際何の仕事に就くのかということを考えてときに、中学時代に私自身がダイエットに失敗した経験もありましたし、バレリーナたちが厳しい食事管理をしているということも知っていましたので、食べるのが好きという本来の私の趣味でもあるのですが、そういったところも楽しみながら、いかに体を大切にできるかということを考えていきたいなという思いに至りまして、管理栄養士の大学を目指すことにしました。

もう本当に今まで全然勉強していなかった私が勉強することになったので、本当に武庫川女子大学に受かるのかなと思っていたのですが、幸いにも武庫川女子大学に進学することができました。入学した当時はバレリーナのためのスポーツ栄養士を目指していたのですが、いろいろな授業を受けていく中で、やはり、食べるということは、当たり前前の行動なのですが、その食べ方によって体はよくなったり悪くなったりするという、人間栄養学といいますか、体は食べ物によってできているということを再確認し、実感することができたので、それをいろんな人に伝えながら、少しでも多くの



人が健康な人生を送ってほしいという思いも強くなり、今の公衆衛生の道に進ませていただいております。

●**高橋所長** ありがとうございます。びっくりしました。宝塚歌劇団を目指していた方が、今、公衆衛生学の教員になっていらっしゃるということが、幸か不幸か宝塚を落ちられたことがターニングポイントというふうに理解いたしました、それでよろしいでしょうかね。

●**講師(絹田)** そうですね。そのときに一生懸命頑張って乗り越えたというのが大きかったかと思います。

●**高橋所長** はい、ありがとうございます。皆さんのターニングポイント、人それぞれで、でも本当に武庫川女子大学が関わっていたり、あるいはいろんな方の後押しがあったりということで、大変楽しく聞かせていただきました。

それでは次の質問に移らせていただきます。武庫川女子大学をご卒業されたということで、学部時代は女子大学で学ばれたということですが、その女子大学で学ばれたことが今現在までの間で効果的といいますか、とても生かされたという面と、大変苦労したという面とがあるかと思うのですが、何か印象的なことがありましたらお話いただきたいと思います。

女子大学で学ばれたというところが、皆さん共通のところだと思いますので、お願いしたいと思います。横井さんからお願いいたします。

●**講師(横井)** そうですね。女子大学で学んだことは、私にとってはすごくプラス

だったと思っています。今は女性の社会進出というのが当たり前になっていると思いますが、女性だけの環境、女子大で過ごしたことで自分自身が自立した女性になるためのキャリアプランというものを考えられるようになったのではないかなと思っています。

特に女性は、結婚などのライフイベントがある中で、女性として社会に貢献し続けられるキャリアプランというのはどういふものなのかということの特に最近よく考えるのですが、武庫川女子大学で過ごしたことで、社会に出ても動じない人間に成長することができたため、女子大で学んだことはプラスだったと思います。

●**高橋所長** ありがとうございます。

横井さん、それでは苦労されたことってないですか。

●**講師(横井)** 苦労は、そうですね。女子大に行ったことで苦労したということはないですね。大学院や会社でも男女半々ぐらいの環境ですが、特に女子大、女子だけの環境で過ごしたことで苦労したということはないと思います。

むしろ女性だけの環境で過ごしたことで、すごく強くなったというか、自分をしっかり持てるようになった気がします。

●**高橋所長** 最初おっしゃっていただいたように、自立したというところでは、今、武庫川女子大学も学生時代に自立を目指してもらいたいという教育理念を打ち立てていますので、そういうお言葉を聞きますと卒業生が頼もしく巣立っていっていると、しっかり大学の方針に沿って学んでいただ

いたなというのが感じられます。ありがとうございます。それでは吉本さん、いかがですか。

●講師(吉本) 非常によかったと思う面は、こういう機会もそうだと思いますが、何かと行事がいろいろあって、自分に興味があるものともちろんないものがあるとは思いますが、大学の授業も色々あったと思います。

大学時代に中国語を取っていて面白かったのですが、大学卒業後に社会人になって勉強しようと思うと、NHKの中国語講座を受講しても月に3、4万円かかるので、授業はいっぱい取っておいて損することはないなと思いました。

どうかと思ったことはそこまでないのですが、私自身大学時代に恋愛をした覚えがなくて、男女がいたらもうちょっと刺激的なこともあったのではないかなと思います。以上です。

●高橋所長 ありがとうございます。

女子大学ですので、出会いはやはり少ないということになるかと思いますが、一生懸命学生時代にいろんな行事やイベントに参加されて、語学もたくさん学ばれたというのが伺えました。ありがとうございます。

それでは絹田さん、いかがですか。

●講師(絹田) 私も女子大で学んだというのはプラスだと思っています。

私自身、中学、高校も女子高だったので、女子だけの環境というのは慣れていたのですが、管理栄養士という職種が特に女性の方が多く就く職種ということもあるので、

同性である仲間が管理栄養士としてこの先どういう就職先や進学を考えているのかということ、日常的に話す機会が多い環境や、将来についてのイメージがしやすいなど、時には刺激になったこともあったので、プラスであったと思っています。

●高橋所長 ありがとうございます。

絹田さんが学ばれました学科は特に女子大学に開設しているところが多いというのも本学に入学してこられた要因かと思いますが、やはり同じ女性がどういふふうなキャリアデザインを描いていくかというところでも、心強かったのではないかと思います。ありがとうございます。

それでは多田さん、いかがでしょうか。

●講師(多田) 音楽は実力の世界なので、女性とか男性とかは正直あまり関係なく、もちろん女性らしい演奏とか男性らしい演奏ということではありますが、それは個性として捉えていますので、女子大学で学んだことが特に私のキャリアの中でプラスであるということはありません。

●高橋所長 ということは、もう本当に実力の世界だということですね。音楽は本当に個人個人の実力の中で競い合っていて、そしてコラボレーションしていかれると。お互いに優れたもの同士で組み合わせると、今も組んでいらっしゃるけれども、そういうところでご自分の力を発揮できるということでしょうか。ありがとうございます。

女子大学で今、学んでいる学生にとっても4人の皆さんからのアドバイスやお話は心強かったと思います。



もちろん男女共学と女子大学で何か違うかという、やはりそこに自立していくとか、同性の多くの先輩のロールモデルをすぐ近くで見られるというメリットもあるかと思えます。

それでは、次の質問に移らせていただきます。

4人の卒業生の皆さんのうち3人の方は、海外での仕事や学生生活をご経験されているのですが、海外で活躍するためにはどんなスキルを持っていないといけないとか、何かポイントがあるかと思うのですが、それをお話いただけますでしょうか。

絹田さんは国内でのご活躍ですので、3人の方に質問させていただきます。

多田さんからお願いしてもよろしいですか。

●講師（多田） はい。私がドイツに来て感じたことは、日本人はとても礼儀正しくて真面目できちんとしていて、それが日本人らしさでとてもいいところですが、たまにそれが裏目に出てしまうことがあります。

海外の方は、とても積極的で自分の意見を言うのが上手で、良くも悪くも自己主張が激しいのかなと私は感じています。私はそういう面が欠けていて、今でもちょっとシャイな部分が残っているのですが、海外の人とコミュニケーションを取るにあたって積極性と自分の意見をはっきり言うということはとても大切だと思っています。

●高橋所長 ありがとうございます。

ということは本当にしっかりと意見を持って、それを発信する力を持ってということでしょうか。

●講師（多田） はい。

●高橋所長 相手の方に分かっていただくように、言葉で伝えるということが重要であるということですね。

●講師（多田） はい。

●高橋所長 横井さん、いかがでしょうか。

●講師（横井） 海外で仕事をして感じたことは、海外だけではないかもしれないのですが、コミュニケーション力がとても重要だと、楽天での海外の仕事を通して思いました。これは職場だけではなくて友人関係においてもそうだと思うのですが、人間関係を作っていく上でコミュニケーションはすごく大事だと思います。うまく相手とコミュニケーションを取って、良い関係ができれば、そこから新しいネットワークも広がっていきますし、また新しい出会いもあると思います。

そういったことで、私自身はしっかり相手の話を聞くとか、伝えたいことを分かりやすく伝えるということを普段から心掛け、コミュニケーション力を磨く意識をされていて、コミュニケーションがしっかりとれると海外に関わらず日本でも活躍していくことができるのではないかなと思っています。

●高橋所長 ありがとうございます。多田さんの意見と共通しているような気がしますね。ですから、今横井さんがコミュニケーション力とおっしゃったのは、相手が求めるものと、そして自分が伝えるものをいかに分かりやすく伝えるか、間違えずに理解していただくかということだと思いますので、そういう力をやはり持たないといけないということですね。

●講師（横井） はい、そう思います。

●高橋所長 ありがとうございます。

それでは吉本さん、いかがでしょうか。

海外で活躍するためにはということで。

●講師（吉本） 前の方お2人が言ったことも私はすごく重要だと思っています。

もう1つ、国内外で活躍していくためには、“環境を選ぶ”というのは大切なことだと思います。

海外に出るのも1つの選択でしょうし、どこかで何かをするのも選択だと思うのですが、海外で働いた後に戻ってきて、日本にいる生活では経験したことを生かす場がなくて、自分がやりたいと思うことがあれば、自分で環境を変えて選んで進んでいくことが大事じゃないかなと思いました。

選択で、最近よく思うのが、日本人ということは変えられないのですが、日本人ってすごいプロセスが大事で結果もちろん大事だと思うのですが、何をしたか、どうやってしたかという過程をすごく見られませぬ。逆に海外だと、結果だけしか見られない。例えば、どれだけチームのメンバーが成果を出したかや、どれだけ離職率を上げないで一緒に高まっていったかというのが、違いとしてあるかなと思いました。

1つ、今写真を紹介したのですが、ベトナムで働いているときに、おそらく最大12名ぐらいのメンバーと一緒にやっていて、学生や卒業したばかりの子たちで、機械のことも何も分からないけれど、がむしゃらに頑張るような子たちでした。ただ怠けるのも人一倍、嘘つくのも人一倍上手で、ベトナム人からしたら日本人なんてすぐだ

ませると思っているので、だらだらするのも好きにします。そのときには、環境を選択するというのはおかしいかもしれないですが、日本だとメンバーと一緒に、例えばコーヒーを10何人で飲むとか、時にはあるかもしれないのですが、ベトナムでは定期的に朝ご飯や昼ご飯をみんなで持ち寄って、一緒にくだらない時間を過ごすことでみんなの士気が高まり、「しゃあないな、また瑠巳が言うところからやったろか」みたいな形で動いてくれるというのは、日本とはまたちょっと違った経験をしたなと思いました。以上です。

●高橋所長 ありがとうございます。ベトナムのチームの方は全員女性なんですね。

●講師（吉本） 時には男性もいたのですが、やっぱりというかベトナム人は女性が強く働き者なので、男性よりも女性のほうがよく稼いでいきます。

●高橋所長 なるほど。そうですか。でも、その今の吉本さんのお話を聞くと、やはり横井さんや多田さんのお話と一緒にコミュニケーション力につながるのですね。一緒に食事をすることによって、吉本さんの言われている業務をやらないといけないという思いをベトナムの方が持ったということは、やはり発信と受け取る側の意思の疎通がうまくいっているというふうに理解しましたけれども、吉本さんのコミュニケーション力だと思います。ありがとうございます。大変いいお話を聞かせていただきました。

今の3人の皆さんからのお話をまとめさせていただきますと、やはり海外で活躍し



ていくということは、相手の国の方と意思の疎通を図っていく。そのときは自分で発信する力を持つ、そして分かりやすく向こうの方に理解していただけるような説明をする必要がある。ということでまとめさせていただきました。ありがとうございます。

それではまた質問を変えさせていただきます。

今日、35人ほどの方が参加していただいているのですが、学生の方もいらっしゃいます。この学生の方に4人の皆さんから、アドバイスをしていただきたいと思っています。

絹田さん、いかがでしょうか。学生の方へのアドバイスをお願いします。

●講師（絹田） 今、学生時代に戻って皆さんに伝えたいことは3つありまして、多くの人の話を聞くということと、分からないことを知り、知ることの楽しさを知ること、そして自分で考える力を身につけるということ、この3つを伝えたいと思います。

といいますのも、今の私があるのは、学生時代にたくさんの先生方や先輩方に将来についての相談を聞いていただき、経験談や仕事の内容などたくさん教えていただいたからです。

今日のような、卒業生座談会もとても大事な機会だと思います。聞かないと分からない世界はたくさんあると思いますので、多くの人の話を聞いて選択肢を広げてくださいと思います。

そして分からないことが分かるというのは、本当にうれしいことだと思います。さ

らに先へ進むこともできるし理解も深まると思うので、自分は何が分からないのかということに気づき、それを知ることの楽しみをたくさん経験してほしいと思います。

最後、自分で考える力を若いうちから身につけておくことは大切だと感じる今日この頃なのですが、教わることでばかり学んでいると自分で積極的に考えるということをしなくなりますので、疑問を持ったり、こうしたら良いのではないかと、想像や理想を描いたりなど、とにかく自分で考えることを意識してほしいと思います。以上です。

●高橋所長 ありがとうございます。

いろんな方とお話をするということ。先生だけではなくて、先輩であったりあるいは同級生であったり、あるいは学外の方であったりという、絹田さんはそういうケースをたくさんお持ちだった、あるいはそういうふうにしていけばもっとよかったということですかね。

●講師（絹田） そうですね。たくさんの人にいろんなお話を聞かせていただいた中で、そこでもう少し疑問を持っていたら、もしかしたら違う選択肢もあったのかもしれないし、もう少し深めることもできたのかもしれないという反省もありながらも、やはり先に進んでいくにも、何か分からないことをすぐに解決するというのも授業の中でできたらよかったと思いますので、いろんな人の話を聞いて進んでいくというのがすごく大事だと思います。

●高橋所長 心強いアドバイスをありがとうございます。

それでは音楽学部の学生からは多分憧れの先輩だと思います。多田さん、お願いします。

●講師(多田) 私の周りでは就職活動をする友人が大半で、その中でさらに音楽を勉強しようとしていたことに正直後ろめたさがありました。無意識に自分と他人を比べてしまっていたからだと思います。

でも今思うと、あのときに夢を持って挑戦したことは間違いなく今につながりましたし、夢が自分を成長させてくれました。

ですので、後輩の皆さんに伝えたいことは、他人と比べることなく自分の道を信じて目標を持ち真剣に取り組むということです。そして音楽に関していえば、練習はもちろんのことですが、私は人の演奏を聞くということも大切にしていました。学内演奏会や学外でのコンサートなどでほかの人の演奏を聞き、こういう表現方法があるのだと、そこから学べることもすごく多くて、今はSNSが発達していますので、すぐに聞きたい音楽が聴ける時代ですが、その場にはないと感じることのできない表現や空気感を、実際にホールで感じてもらって感性を豊かにしていってほしいと思います。

●高橋所長 ありがとうございます。

すごくいいアドバイスだったと思います。本当に素晴らしい一流の演奏家の音楽を聞いたり、あるいは先輩であったりいろんな学内外の演奏を聞かれて今日の多田さんがすばらしい演奏家の道を歩いていらっしゃるのだというふうに思いました。後輩の方にもぜひそういう機会を作って演奏会など聞きに行っていたきたいというふう

に思います。ありがとうございます。

それでは横井さん、いかがでしょうか。後輩へのアドバイスをお願いします。

●講師(横井) 学生の皆さんに伝えたいこととしては、学生時代に何かを成し遂げる経験をするのが大切だということを伝えたいと思います。

私の場合は、中高時代にコーラス部だったのですが、そのコーラス部で全国大会に出場した経験で培った、高い目標を達成する力や、海外留学や海外での仕事を通して培ったコミュニケーション能力ということが今の仕事でも生かされていると思います。

なので、学生の皆さんにはどんなことでもいいので目標を持って達成するという経験をすると、その達成するまでの過程でぶつかる課題や困難もあると思いますが、それを解決する力や最後までやり抜く力というのがしっかり身につくと思います。

成し遂げた経験があると、これから社会に出たときに自分の力になって生かされると思いますので、ぜひ頑張ってほしいと思います。

●高橋所長 ありがとうございます。

夢あるいは目標を持って進んでいきなさいと。その過程で何かぶつかったときには、いろんな方のアドバイスがあったりステップを上げるようなチャンスがあったりということですかね。今のお話と、先ほどからのお話を聞いていますと、留学までのプロセスだとか留学された後のプロセスなどいろんな夢を持って目標を持って行かれたという感じがいたしました。ありがとうございます。



それでは吉本さん、後輩へのアドバイスをお願いいたします。

●講師（吉本） 後輩に伝えたいことを、3つ私は書きました。

まずやりたいことをやる。つまり、何か面白そうだなというか、興味のあることを無視しないで自分の気持ちを聞いてあげて、ちゃんとそれを救ってあげて、やっておもしろくなかったらやめたらいいかなと思います。やってもないのに、周りがやってないからとか、みんなとしたほうが楽しめるとか、新しいことをやるのって大人でも子供でも初めは勇気があるものだと思いますが、大学生のときだと、思い切ってやる時間とお金があったような気がしますので、自分の小さい小さい興味関心は無視しないほうがいいのかなと思いました。

恋愛するとしたのは、さっき言いましたので割愛します。

最後、考え過ぎても一緒に書いたのですが、例えば何年生の方がこれを聞いているか分かりませんが、就職活動や何か決めないといけないときに、私の周りでもたくさんいました。営業は何か難しそうだから嫌とか、金融関係に絶対行きたいとか言う方がいて、夢を持ったり目標を持ったり、それに向かってやるということはものすごく素敵なことですし、それを貫くということもすごく格好いいことだと思うのですが、「金融関係に絶対勤めたい。保険関係に勤めたい。」と言っていた子が、やっぱり結婚して家庭に入り、子供がいて違うことをしているというのは、それはそれで今の道が素敵な道なので否定するわけではないの

ですが、初めやろうと思っていたことが何かの機会が変わることっていっぱいあると思うので、考え過ぎて、「これやっ！」でなってからやるのと、今ぱっとやってしまうのとでは、タイミングの話もあり、結果変わってしまうということもあるので、とりあえずやってみるということが大事なかなと思います。

3つ中2つ同じようなことを言っているのですが。

あともう1個追加します。また写真シリーズでベトナムにいるときに、ちょっと環境もそんなによくないので1回倒れたことがあり、入院まではしなかったのですが点滴を受けたことがありました。なので、明日もし交通事故に遭うとか縁起でもないこと言っただけ申し訳ないのですが、そういうこともあるので、やりたいなと思ったことはどこかに書きとめてやるということが大事じゃないかなと思います。以上です。

●高橋所長 ありがとうございます。

何かすごく伝わってきます。やりたいことをやるって本当その通りだと思います。それから、恋愛のことは先ほどもお聞きしましたが、学生時代にできなかったとおっしゃっていましたが、今はご結婚間近に控えてらっしゃるということで、それは達成されたのかなという感じがいたします。そして最後の3つ目に挙げていらっしゃることですよね。

●講師（吉本） 考え過ぎても一緒に。

●高橋所長 考え過ぎても一緒にという。もうその通りだと思います。ただ、すごくポイントでおっしゃったのは、タイミングと

おっしゃいましたよね。タイミング。それはすごく4人の方にも共通するかなと思いました。

やっぱり何かのきっかけでそのときに躊躇するか、進んでいくかという、そのタイムリーな判断というのもその方の培ってこられた経験だとか、学習してこられたこととか、そういうもので後押しされたのかなと思いましたので、吉本さんが今、タイミングとおっしゃったのはすごくいい言葉だと思いました。ありがとうございます。後輩の方にいい助言、アドバイスをいただいたというふうに思います。

それでは雰囲気を変えまして、今年の2月からコロナ禍で皆さんの生活も変わったかと思うのですが、コロナ禍の中でご自分にどのような影響を及ぼしているか、生活に変化があったのか、そのあたりを一言で結構ですので、お話しいただけますか。

吉本さんからお願いします。

●講師(吉本) はい。コロナが個人に影響したということですか。

●高橋所長 そうですね。吉本さんの生活に影響を及ぼしましたか。

●講師(吉本) 会社での働き方が大きく変わりました。今少し落ち着いてきたというか、落ち着いてはないと思いますが慣れてきたということもあって、もとに戻りつつあるような気がします。

ただ、世界を行き来することや出張で今日は北海道という生活をしているわけではないので、ものすごく変わったかと言われたらそこまで変わってない。給料が減ったぐらいだと思います。

●高橋所長 そうですか。お給料に影響を及ぼしたのですね。会社の方針も少し変わったということですかね。

●講師(吉本) そうですね。テレワークは自宅で仕事をしますが、会社に行かないとコピー機を使う機会がないので、私たちの業界としては厳しい成績というか状態にはなっています。

●高橋所長 これからまた新たな展開を考えていけないといけないという状況ですね。ありがとうございます。

●講師(吉本) はい、新しいことを考えないといけないと思います。

●高橋所長 絹田さん、いかがでしょうか。

●講師(絹田) 私生活において、3月の末に出産をしたということもありまして、本来なら立ち合い分娩プラス入院中に家族の面会もできたのですが、もう本当にぎりぎりところで生まれたこともありまして、幸いにも主人だけは立ち合いができましたが、入院期間中は家族の面会が出来ない生活を過ごしたというのが大きな影響だったかなと思っています。

仕事においては、リモートが普及したことによって対面とリモートの両方で講義をしています。可能ならば対面でやりたい、やったほうが学生の反応を見ながら授業を進めていけるのでいいなと思う反面、会議や打ち合わせは、効率や便利性を配慮し、リモートのほうが良いと感じています。リモートの向き不向きがあるなど感じる今日この頃です。

●高橋所長 ありがとうございます。

大いにICT化をこれから発展させてい



かないといけないということだと思っています。ありがとうございます。

多田さんいかがでしょうか。コロナは、ヨーロッパでは大変じゃないですか。

●講師（多田） 私は3月の初めに初めてのソロリサイタルを予定していましたが、コロナの影響で中止となりました。演奏家にとって人前で演奏できないということが、どれだけ苦しいことなのか、本当に身をもって痛感いたしました。

音楽は人の心を癒してくれる、心を豊かにするものだと思っています。そんな音楽を途絶えることなく、世の中に音楽を届けるためには、今はオンラインでのコンサート開催や動画配信などを考えなくてはいけないのかなと思っています。

ドイツでの状況は今、再び悪化しまして私自身も10月と11月に予定していたコンサートが全てキャンセルとなりました。その上、来週月曜日からは再びロックダウンとなりまして音楽家にとっては本当に厳しい状況が続いております。

でもそんな状況だからこそ、今は前を向いて音楽としっかり向き合ってこのつらい状況を乗り越えていきたいなと思っています。

●高橋所長 分かりました。多田さん、ぜひオンラインで演奏会を開催してください。ドイツが大変だというのはニュースで聞いておりますので、どうぞ感染に気を付けて、そして今の間にしっかり力をつけ、もう1段、さらにすばらしい力を付けていただいて私たちにも演奏を聞かせていただきたいと思いますのでお願いいたします。

●講師（多田） はい。

●高橋所長 ありがとうございます。

横井さん、いかがでしょうか。コロナ禍は、楽天のほうも影響していますか。

●講師（横井） そうですね。楽天の仕事はフリマアプリのサービスなので仕事自体に影響はないのですが、仕事環境はすぐ変わりました。3月から在宅勤務になっていて、もう約8か月ぐらい会社に行っておりませんが、今まで会社に行って対面の会議が当たり前で、そうしないと仕事もできないと思っていましたが、リモートワークがノーマルになってからはリモートでも生産性も落ちてないですし、むしろ効率がよくなったということが分かりました。今後楽天としても新しい働き方ということを考えて、どういった形で働いていくかというのを今、考えて動いているところです。

あと、もう1つプラスというか、仕事の関係でイベントに参加することもあるのですが、なかなか時間を合わせて出向いたりすることが難しいものでリモートであれば簡単に参加できるので、いろんなイベントに参加できるようになったということはよかったところかなと思っています。

●高橋所長 ありがとうございます。

今日もこうやってドイツからも参加していただいていますので、リモートのメリットというのも私たちも痛感しています。ぜひ生かしていきたいですね。楽天は世界の楽天ですので、そういうところの取り込みはよく考えていらっしゃると思います。ありがとうございます。

それではもう1題だけ私のほうから聞か

せていただきたいことがありますので、その後、参加された皆さんからのご質問を受け付けたいと思います。

私のほうから、今回タイトルに新たな挑戦という言葉をつけさせていただきました。これは事前に皆さんにお伝えしておらず、本日突然に質問させていただくことになりますが、それぞれの4人の皆さんにとってのこれからの新たな挑戦、何か1つでなくても2つでもいいのでお話いただけたらと思います。

絹田さんから順番にお願いしてもいいですか。

●講師(絹田) 新たな挑戦ですね。そうですね。やはり女性が結婚し、子供を育ててさらに社会でそれなりに活躍するということは、なかなか難しい時代ということもあると思います。実際、自分が今、遠くに出勤になっていることもあり、日々家の中をいかに回していくかということを家族で相談しながらやっておりますが、これまでの皆さんのお話にもあったように、自分の夢は捨てずに、自分はこれをしたいんだという気持ちをしっかり持ちながら、どういうスタンスでどういうスケジュールでどういうスパンでこれが叶うのかということを更新しながらでもリセットしながらでも考えて、最終的にはいずれその夢がかなうように、多くの女性があれもこれもしたいことをしながらやっていくことができるようになればと思いますし、私自身が先を走っていったらなと思います。

●高橋所長 ありがとうございます。楽しみにしています。

多田さん、いかがでしょうか。新たな挑戦、たくさんあるかと思いますが。

●講師(多田) 私はドイツに来てから尊敬する先生のもとで演奏技術や音楽表現を磨いてきたのですが、そんな中で武庫川ではできなかった室内楽に挑戦することがとても増えて、Resonanz Trioを結成いたしましてそれで今、地道にグループとしての活動を続けています。

気の合うメンバーにも恵まれて、メンバー全員出身も母国語もばらばらで、でも音楽という共通言語を使いまして一緒に演奏できるということに喜びを感じていますので、これからも日本、ドイツ国内だけでなく世界中で一緒に活躍していけたらいいなと思っております。

●高橋所長 ありがとうございます。

ぜひ3人でコロナが落ち着きましたら、日本で演奏会を開いていただきたいと思います。今日は多分、多田さんのファンが増えたと思います。待っていますのでよろしくお願いします。楽しみにしています。

●講師(多田) ありがとうございます。

●高橋所長 横井さん、いかがでしょうか。新たな挑戦です。

●講師(横井) そうですね。私は社会人としては楽天でしか働いたことがないのですが、気づけばもう社会人7年目になりました。社会人としての基礎スキルみたいなところは身についたかなと思っているので、今後は今までの自分の経験や人脈を生かして異文化交流とか言語教育というところの新しい取組に携わっていきたいと考えているところです。



● **高橋所長** ありがとうございます。なかなか素晴らしいですね。そういう取組を持ってらっしゃるといのが。私の願いとしては横井さんに楽天で女性のトップに立っていただきたいというような思いもありますので、ぜひご活躍をお願いしたいと思います。期待しています。

● **講師（横井）** ありがとうございます。

● **高橋所長** 吉本さん、いかがでしょうか。新たな挑戦。

● **講師（吉本）** 新たな挑戦は、いつも20代で何をしていたいとか、30代、40代で何をしていたいとかというのを大まかに持っていたのですが、30代が正直ぽかっと抜けてしまっていて、でも40代では家族と過ごしたいという夢があって、そうすると30代は子供を作らないといけない。旦那を作らないといけないというのがあるので、今の絹田さんみたいなのが新しい挑戦。私にとって新しい挑戦かなと思っています。以上です。

● **高橋所長** ありがとうございます。いやもうぜひ、もうその吉本さんの挑戦は間もなく実現すると思いますので、ぜひキャリアデザインを描いていただいて、40代、50代も女性として光輝いていただきたいと思っています。期待しています。

● **講師（吉本）** ありがとうございます。

● **高橋所長** それでは私のほうばかりで質問をさせていただいておりますので、本日までご参加いただいております皆さんからぜひ聞きたいというご質問をお願いいたします。いかがでしょうか。遠慮なくご発言ください。

本日、瀬口学長も参加していただいております。

はい、永田先生、お願いします。

● **永田先生** 私は本学を卒業し、今は武庫川女子大学のオープンカレッジの所長をしております。また卒業生の会、鳴松会のほうの幹事長もさせていただいています。どうぞよろしくお願いいたします。

まだまだ皆さん若いですが、これからの最終的な目標、人生の目標などをお聞かせいただけると嬉しいなと思っています。よろしくお願いいたします。

● **高橋所長** いかがでしょうか。人生の目標。すごく大きな目標になりましたけども、絹田さんのほうから一言ずつお願いします。

● **講師（絹田）** 私の人生の目標は、管理栄養士の養成学校のほうで大学教員として勤めていきたいと考えています。やはり自分が学び育ちましたので、ぜひ後輩を育てるということに協力していきたいと考えています。プラスアルファでその公衆衛生という生活習慣病予防というところにも力を入れて研究しつつ、大学教員をし続けたいと思っています。

● **高橋所長** ありがとうございます。多田さん、いかがでしょうか。

● **講師（多田）** 私の人生の目標は、小さい頃からの夢だったのですが、本当に音楽家として自立するということです。今は学生の立場でまだまだ未熟ですが、これからもっと努力して音楽家として自立して、そして聴いてくださる方々の心を豊かにしたいなと思っています。

● **高橋所長** ありがとうございます。

今でも後輩の皆さんは、感動していると思います。

それでは横井さん、いかがでしょうか。

● **講師（横井）** 私が目標としていることは、今、楽天で働いてはいますが、行く行くは日本文化や異文化交流というところにもっと力を入れた取組ということをやりたいなと思っています。ちょっとまだ具体的なことは考えられていないのですが、日本の文化等を海外に発信できるようなことを将来的にはやっていきたいなと思っています。

● **高橋所長** ありがとうございます。

吉本さん、人生の目標は。

● **講師（吉本）** 人生の目標かどうか分からないのですが、小さい頃から私はお母さんみたいな人になりたいなと思っていて、それが何かといったらもうキャリアウーマンというか、小さいときからずっと働いていて放ったらかしにされていたのですが、今となればものすごい憧れの存在で、今70歳近くで、退職してもまた新たな事業を自分で始めていて。多分あの人は笑いながら死ぬんだろうなと思ったら、笑いながら自分も死にたいと思うので、やりたいことをやって肥やしを作って死んでいきたいなと思います。

● **高橋所長** ありがとうございます。

いい目標ですね。永田先生、ありがとうございます。

● **永田先生** ありがとうございます。すばらしいです。頑張ってくださいと思います。

● **高橋所長** そのほか、ご質問ございます

でしょうか。

瀬口先生、一言何か皆さんにお願いします。



● **瀬口学長** 皆さん、こんにちは。今、4人の方、ドイツからの参加の方もいらっしゃるってすごく世界が狭くなったなという感慨深いところがあります。

それで皆さん方のお話を聞いていると、武庫川の卒業生もしっかり世界で頑張っているなど非常に感心いたしました。

紹介が遅れましたけど、私、糸魚川先生の後、学長として2018年から3年目になりました。瀬口といいます。

先ほどのお話の中でいろいろなことが出てきましたけれども、自立心だとか実行力だとかコミュニケーション力だとか考える力だとか、感性豊かだとか、自信をもってやっていくというようないろんなことがありましたけれども、これは全て本学の立学の精神や、教育目標です。教育推進宣言で私たちが目標としているものを今日の4人の方はほとんど実現されているというような感じがあって、非常に感慨深く思っております。



本学は、ちょうど去年、武庫川学院創立80周年ということでいろいろなお祝いをしました。そして、次の100周年に向けてのビジョンを作りました。皆さん方もご存じかと思いますが、「一生を描ききる女性力を。」ということで、皆さん方は言うてみれば、もう描き切っておられる女性ということですが、女性の年齢は100歳までありますのであと70年、一生が勉強だと思っ

て、また頑張っていたいただければと思います。私が聞きたいことは、本学に何か期待するものといえますか、もう少し優しい言葉でいえば、この武庫川女子大の教育に何かおもしろいということがあれば、教えていただけましたら参考にさせていただきま

す。個人的な感想でも結構です。自分たちのときにはこれが足りなかった、といったことでもいいですので、ぜひお願いします。
●高橋所長 いかがでしょうか。今、瀬口先生がご質問された武庫川女子大学に期待したいこと、あるいはこういうことがあればもっといいよということがありましたら、絹田さんからご発言お願いできますか。

●講師(絹田) 私自身武庫川女子大学を卒業したことに何の不満もなく、武庫川女子大学を経たことによって今の自分があることにすごく感謝をしております、いろんな経験をさせていただきました。

私は、ほかの3名の方とは違っていて、海外留学の期間は短かったのですが、サマー留学でアメリカ分校へ行き、さまざまな体験をさせていただくこともできて、学生生活の中で申し分のないほどのプログラムがたくさん用意されていたので、その

チャンスを学生たちがキャッチして、今この機会だからこそ行っておこうというような気持ちになる学生が増えていけば、より武庫川女子大学が生かされていくのではないかなと、思います。本当に申し分のないカリキュラムにより卒業、修了しましたので、胸を張って武庫川女子大学卒業ですと今も言わせていただいていることに感謝いたします。

●瀬口学長 ありがとうございます。

●高橋所長 多田さん、いかがでしょうか。

●講師(多田) 私はピアニストになるという夢に向かって突き進んでいたもので、大学で学んだことは今の自分を作ってくれましたし、やりたいことを全部して、悔いなく学生生活を終わることができましたので、大学の中村先生を始め、担当してくださった先生方には本当に感謝しております。

ドイツに来てから室内楽をする機会が増えまして、それが武庫川ではできなかったもので、今できていることにすごく満足しているのですが、それが武庫川での学生時代にできたら今もっと幅が広がったのかなとも思います。

●高橋所長 ありがとうございます。

いかがでしょうか、横井さん。

●講師(横井) 私は武庫川には中学校からお世話になっていて、たくさんの先生方のサポートがあって今の自分があると思っていますので、大変感謝しております。

教育学科に在籍しながら交換留学も経験させていただきましたし、たしか私が教育学科から第1号で交換留学に行ったと聞いています。今はどうなっているのか分かり

ませんが、英文科以外の学科の学生がもっと海外に目を向けられるようなプログラムがあるといいなと思いました。

あとは提携校が幾つかあると思うのですが、今はいろんな国の人と関わる機会も多いと思いますので、英語圏以外の国の留学先も増えていくといいなと思いました。

●高橋所長 ありがとうございます。

そうしたら吉本さん、いかがでしょうか。武庫川女子大学にこういうことがあればとか、何か。

●講師(吉本) 学生時代に中国語を取っていて中国語のベーシックとアドバンスみたいのがあって、アドバンスが取りたかったのですが、時間が合わなくて取れなかったので、語学の授業をもう少し増やしてほしいなと思いました。

あと卒業後に思うこと、期待することは、何度か卒業後に上田先生や佐藤先生にお会いするために、日文の13階に行っているのですが、廊下も暗いしどんよりしている空気だったので、例えば電気を明るくするなど先生方が生き生きするような環境になればもっと学生も入りやすいし相談もしやすいし、卒業生も行きやすいしという環境になるのではないかなと思いました。以上です。

●高橋所長 ありがとうございます。

大事ですよ。明るさというのは分かります。

●瀬口学長 ありがとうございます。

学生さんたちに、大学はいろんなプログラムを用意しているのですが、どのようにして参加していただくかということをしな

いとイケない。海外研修を含め、いろんなプログラムがあると思うのですが。そういう面では、今日の皆さん方のお話などもゼミの学生さんに聞かせてあげると、色々なことが分かって、大学が用意するプログラムに乗ってくれるのではないかなと思います。私どもが言うよりも皆さん方の今のよな話を聞かせたほうが、よほど学生さんは、自分のこととして考えてくれるのではないかという気がします。

校内を明るくする話は、コストの関係もありますが、合同教授会で先生方に伝えておきます。ありがとうございました。

●高橋所長 瀬口先生、ありがとうございます。

それではもう1人、質問受けつけれますがいかがでしょうか。参加いただいています学生の方並びに先生方ご質問いただけたらと思いますが、いかがですか。

はい、内田先生お願いします。

●内田先生 今日の4人の方々のお話は、本当に力強く私自身も元気ももらいました。本当にありがとうございます。

今、授業をやっている、こういうロールモデルがあるということを具体的に言えるので、授業の材料をもらって本当にありがたかったと思います。

それで、実際に私が授業をやっていることなのですが、これは武庫女の学生に限りません。国際比較で、日本の若者は他の国の若者に比べて自信がない。つまり自己肯定感がすごく低いと言われてます。年代によっても違うのかもしれませんが、私が授業をしていても、皆さんのよう



にすごく自信に満ちている学生もいるのですが、一方で自分に自信がない。はっきりと授業の感想に書く学生もいます。自己肯定感が非常に低い。すごく失敗を恐れる、正解を求めるとか、そういうことを言う学生は結構います。

皆さんと真逆だと思うのですが、皆さん自身はもともと小さい頃からそうだったのか、あるいは、いや以前は自己肯定感がなかったけれど、あることがきっかけで変わったのか、そういうことが分かれば授業で伝えられるかなと思うのです。もし小さいときから自己肯定感が高かったとすれば、つまり自信に溢れているんなことにチャレンジするような人であれば、例えば吉本さんが言われたように考え過ぎても駄目、やりたいことをやろうみたいなことを思えば良いのですが、意外とそうではないと感じます。自己肯定感が低い、ないしは自分に自信がないという学生に対するアドバイスを皆さんから何かあればありがたいと思います。あともう1つは失敗をどう捉えるか。そういう学生はすごく多いので、その自己肯定感と失敗の問題。ご意見伺えたらありがたいです。

●高橋所長 今の質問に対して何か回答できるという方、どうぞ。お名前も指定しませんので、どうぞ自由にご発言をお願いします。いかがでしょうか。

吉本さん、お願いします。

●講師(吉本) 私は昔から何でもできると育てられたので、自己肯定感は正直高いほうだと思います。でもやっぱり挫折することや失敗することもあって、なかなか自

分から進んでできていないと思うこともありますが、私が仕事の際に思うのは、小さい小さい達成感を積み重ねていくことかなと思っています。

初め、自分の興味を無視しないという話をしたと思いますが、どんなことでも、例えば仕事でもいっぱい仕事たまって、あれもやらなあかんこれもやらなあかん、と思ったときに、そのやらなあかんトードウーリストから一番に消せることからどんどん消していき、これはやった、これはやったと思えたときに、1個でも2個でも消えたらやっぱり小さいことでも達成感が生まれて、自分を肯定できるような感じがするので、私が思うには自分の興味を無視しないということと、小さいことでもいいので、小さい小さい達成感をたくさん味わっていくというのが質問の回答になるかなと思っています。以上です。

●高橋所長 絹田さん、どうぞ。

●講師(絹田) 私も吉本さんと似たような回答になるかと思いますが、私は自己肯定感が昔から高かったわけではないです。いろいろな失敗をして、兄と比較されるようなことも多く、泣きながら何でもやってきた記憶があるのですが、そのときに必ず言われていたのが、「よく頑張ったね」と必ず褒めてくれていました。できた事は小さいことでもいいので、そこで自己認識というか、認めてもらっていたという記憶がありましたので、私も講義をしていて、いかに公衆衛生を分かりやすく教えるかというところで、学生の反応を見るようにしています。また毎回小テストをして、それは

マルカバツかという単なる回答ですが、学生に回答してもらった時に、できていることをしっかり相手に伝えることで、自信を少しずつでも持ってもらえるように心掛けています。

あと失敗ということに関しては、全てにおいて失敗はないと思ってやっていて、経験であると言い聞かせながらプラスに考え、マイナスに思わず前に進んでいこうという意識はいつもあります。

●高橋所長 ありがとうございます。

横井さん、お願いします。

●講師（横井） 私自身もすごく自己肯定感が昔から高かったかという、そうではなかったかなと思うのですが、小さい頃から結構いろんなことに興味を持ってチャレンジしていたなという記憶はあります。習い事にしてもそうですし、いろんな新しいことにすごく興味があっていろいろやっていました。

その中で自分の中でできるというものはずっと継続して続けていたというところが、自信につながったのかなと思っています。

特に小さい頃からいろいろ続けてやっている中でもジャズダンスや、コーラス、英語は継続してやったことで自信につながったと思います。

失敗に関しては、何で失敗したのかなという振り返りをします。振り返りをした上で、あまりネガティブに考えずにこれも経験の1つと思ってポジティブに捉えるようにはしています。

●高橋所長 ありがとうございます。

多田さんお願いします。

●講師（多田） 私も幼い頃からそんなに自己肯定感というのがなかったと思うのですが、演奏をしていく上でコンクールやコンサートに挑戦して、それでうまくいったら自信につながるし、そうやって私は自信をつけていきました。

何か自信をつけるためには、自分の得意なことを見つけるとか、やりたいことを見つけていることはすごく大事なことだと思っていて、料理やスポーツ、音楽など何か得意なことを見つけるということがすごく大事ではないかなと思っています。

失敗をどう捉えるかというところでですけど、今まで数多くの本番をしてきましたが、たくさん失敗をして悔しい思いをしました。しかし、その失敗があったからこそ成長できましたし、失敗したことはあまり考えないようにして前向きに考えるようにしています。

●高橋所長 ありがとうございます。

●内田先生 ありがとうございます。

●高橋所長 学生の方で質問が上ってきております。どうぞ。

●学生 初めまして、本日は貴重なお話をありがとうございました。今就職活動が始まっていて、私が幼い頃から目指している業界があるのですが、それを目指すにあたり、先生や友人、親、先輩にいろんなことを質問して学ぼうと頑張っているのですが、どこまで大人の意見を信じて誰の意見をどこまで信じるかという事を考えて最近すごく悩んでいます。皆さんは学生時代に、誰の意見を信じて何かやってきたというお話を聞きたいなと思っています。よろしくお



願います。

- **高橋所長** 絹田さん、願います。
- **講師（絹田）** すごく気になるところだと思います。私自身も今、やっぱり人の意見を聞く中でどうしていったらいいのだろうと悩むことや、左右されることがあるのですが、そのときに一旦、本当に自分は何がしたいのかという原点に戻るといいのではないかなと思います。

私もいろいろな先生のお話や、先輩のお話、そして実際に行ってみたい病院や実習先、就職先に足を運んでみたりといろんなことをしましたが、本当に自分が何をしたいのかなと悩んだときには一旦原点に戻ってもう一度整理してみることも大事じゃないかなと思います。

そうすることで、これは違うけど、これはそうなのかもとか、もっとこうだったのかなというものが見えてきたり、何か前に進むきっかけになったりとか新たなものが見えてくると思うので、私のアドバイスとすれば、一旦自分が本当に何をしたかったのかということに戻ってみてはいかがかなと思います。

- **学生** はい、ありがとうございます。
- **高橋所長** 吉本さん、願います。
- **講師（吉本）** これはすごく個人的な意見なので、私が当時思っていた悩みと同じかどうか分からないのですが、私が思っていた悩みと同じであれば、否定的なことを言ってきた人には（この人は何も）「知らんやん」ってすぐに言っていました。自分も憧れを持ったところに行きたいという意志があるので、それは目指したらいいと思

うのですが、「知らんやん」というのは私自身にも言っています。その場面を実際に体験したことはないけれど、見たり聞いたりして自分が憧れたものだと思うので、自分に対しても「知らんやん」というピュアな気持ちでいる。そしていろんな人の意見を聞きながら、否定してくる人の意見には、いやいや、「知らんやん」って自分とあなたは違うからっていう事を思っていました。

あと、私も憧れというか、国際協力師というのをやりたいと今も思っているのですが、その人が本を書いている、本の中でこれとこれはやったほうが良いというような条件がありました。自分が憧れている職業をやっている人とか、自分が憧れている人がいるなら、その人が書いている本があればそれを読んでみるというのでもいいかと思えます。大人に相談して、大人は全員社会人経験をしていると思えますが、大学の先生であれ誰であれ、偏りは絶対あると思うので。自分も偏りはあると思うので、初めに話したことで少しずれているかもしれないのですが、1個目が「知らんやん」ということと、もう1個はやっている人の、憧れている人の本を読んでその人が生きてきた道というのを見るということを私はしてきました。以上です。

- **学生** ありがとうございます。
- **高橋所長** 横井さん、願います。
- **講師（横井）** 就職活動をしたときの体験ですが、就職活動をする上で私が意識していたこととしては、グローバルに活躍できる会社を選んでいました。

その中で、周りの人の意見というのはす

ごくたくさん聞いたのですが、最後に決めるのは自分で決めたかなと思います。なので、自分自身が何をしたいか、将来的にその会社に入ったときに自分がしたいことが実現できるのかを考えて、最後は自分自身で決めるのがいいのかなと思います。

●学生 はい、ありがとうございます。

●高橋所長 ありがとうございます。

まだまだ皆さんからのご質問を受け付けたいと思うのですが、間もなく終了の時間になります。今日は4人の卒業生の皆さん、絹田さん、多田さん、横井さん、吉本さん、大変お忙しくしておられる状況の中で、またドイツからも朝早くに大変なところご参加いただきましてありがとうございました。

まだまだお聞きしたいこともありますが、今回の座談会を録画していますので、また後輩の皆さんに見ていただけるようにしたいと思います。

本当に今日はたくさんのお話を聞かせていただきましてありがとうございました。

皆さんのこれからのご活躍を期待しております。また母校に来ていただき、お話をさせていただいたり、あるいは演奏ですね。多田さん、ぜひ演奏も母校でしていただきたく、楽しみにしております。皆様のご活躍を期待しております。

今日は本当にありがとうございました。十分ではありませんが、これで座談会のほうは終了させていただきまして、この後司会の福尾先生のほうにパトタッチしたいと思います。ありがとうございました。

●司会者（福尾） 皆さんどうも、長時間

お疲れ様でした。

最後に、今日のこの会は皆さんにご参加いただいて、学生さんもいろんな啓発や気づきを得たのではないかと思いますし、この会を催したものとしましてはぜひ継続させたいと考えています。つまり今年で終わるのではなく、来年以降も開催し、いろいろお話いただいたことをどんどんつないでいきたいと思っています。

それでぜひともアンケートに回答いただきたいということと、もう1つはぜひとも次回の会に向けてお話くださる講師の方をご紹介いただきたいと思います。世界中で活躍している女性の方、同輩や先輩、いろんな人をご紹介いただいて、ここでいろいろな意見を学生が聞く、そういう機会を継続したいと思いますのでぜひご協力いただけますようお願いいたします。

どうも本日はありがとうございました。

それではこれで会を終了させていただきたいと思います。

●高橋所長 ありがとうございました。



===== 発行日 2021年3月 =====

武庫川女子大学 女性活躍総合研究所
Institute for Women's Career Advancement
and Gender Equality Development

〒663-8558 兵庫県西宮市池開町6-46
武庫川女子大学 中央キャンパス内
TEL : 0798-45-3737 FAX : 0798-45-3535

=====



武庫川女子大学 女性活躍総合研究所

